

多様な武道指導の充実 武道推進モデル校 事例報告

<h1>剣道・空手道</h1>	<p>美祢市立於福中学校（山口県）</p> <p>電話番号 0837-56-0018 メールアドレス ohuku-j@c-able.ne.jp</p>
-----------------	---

●実践研究のねらい

- 剣道と空手道という複数種目の武道学習を通して、基本動作等の共通点や相違点を知り、体感することで、武道への理解を深めるとともに、種目の特性や自己の適性に応じて、武道への興味関心を広げていくことを目指す。
- 技の指導では、道具（竹刀）を用いる剣道と徒手（素手）で攻防を行う空手道を経験することで、種目の特性に応じた身体操作や対人技能を習得する指導の充実を図る。
- 地域スポーツ指導者の専門的な指導を通して、限られた授業時間の中で、伝統的な行動の仕方から簡易な攻防までを効果的に学習し、安全を確保した指導体制を確立することを目指す。

●多様な武道の指導モデル 第2, 3学年（1学級 6名）

	1	2	3	4	5	6	7	8
種目	剣道				空手			
学習の流れ	種目ごとに第1時の導入はオリエンテーション							
	導入（あいさつ、健康観察、本時の学習の見通し）							
	準備運動、伝統的な行動の仕方							
	基本動作の学習			学習のまとめ	基本動作の学習			学習のまとめ
	基本となる技の学習				基本となる技の学習			
簡易な攻防の学習			簡易な攻防の学習					
整理（整理運動、本時の振り返り、次時の連絡、あいさつ）								

●指導の工夫

1 複数武道を効果的に指導するための工夫

- 視覚的資料の活用
武道の歴史や意義をまとめた動画や掲示を活用し、限られた時間の中で学習効果を高める。
 - 教具等の活用
剣道の木刀・模造刀や空手のグローブを使って技の特性を理解しやすくする。剣道では音楽を空手では気合いの発声等を用いて、身体操作のリズムを引き出し、楽しく学べるようにする。
 - 体感を重視した指導
実際に技（打突など）を当てたり、当てられたりする感覚・イメージをつかむために、生徒相互や地域指導者が受け方の工夫をしたり、状況の想定をして学習する場面を設ける。
- ※ 振り返り時間の設定・・・教科担任が別に事後指導の時間を設けて、学習の定着を図った。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 種目の特性と安全の確保
地域指導者との打合せの段階から、教具・活動場所等の環境や対人面での心得など、安全確保に必要な指導や支援について具体的な対話や確認を進める。
- 感染症予防
マスクの着用、手指・教具の消毒、距離の確保等の徹底により感染の予防に努めた。

●授業の様子



【オリエンテーション等】

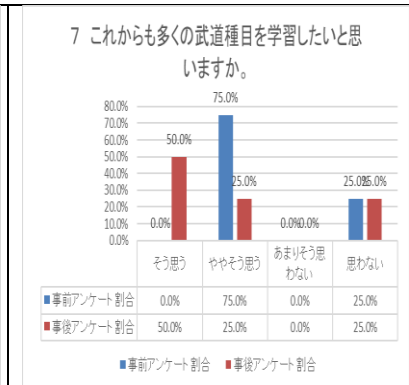
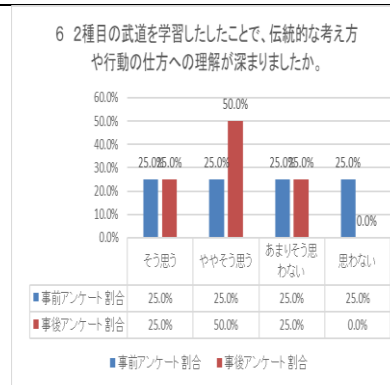
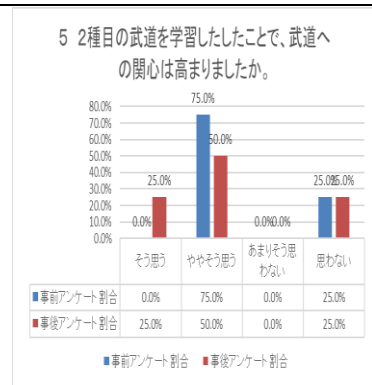
学習する目的や武道の成り立ち、学校教育での意義などを地域スポーツ指導者から専門性の高い指導をうけ、安全面での配慮や相手を思いやる精神などの関心を高められるようにした。



【対人的技能の練習】

型の動作だけでなく、実際に目標物に技を当てる感覚をつかむことで、精度の向上や技の特性を知ることができるようにした。

●生徒の意識、感想、変容など



自由意見

- 剣道と空手の2種目を体験したが、どちらも相手への敬意を忘れないことを学んだ。
- 気合いは大切だと思った。
- 正座にはいろいろな立ち方や座り方があることを知った。

●成果

- 事後アンケートでは、1種目終了時より2種目終了時の方が武道学習に対する好感度が高まった。
- 授業実施前は、武道に抵抗感のある生徒が半数いたが、事後のアンケートでは好感度が高まっている。武道のもつ良さや、地域スポーツ指導者の指導方法が効果的に働いたと考える。
- 日本の武道における「礼儀」や「惻隱の情」といった考え方が、相手を尊重し相手の存在意義を考える機会となり、生徒たちの心の育成にもつながっている。
- 事前に地域スポーツ指導者と指導計画等について対話することができたため、担当教員との役割分担ができ、指導経験のない担当教員への支援や資質向上にとって有意義であった。モデル事業の推進に当たっては、校内でも役割分担をして進めることができた。

●課題

- 地域スポーツ指導者の指導に対する考え方や姿勢が、学校での学びに適したものであることが重要である。そのための指導者確保や指導者との事前の入念な対話が必要不可欠だと考える。
- 複数種目を学ぶことで一つの種目の学習時間が少なくなり、学習内容の習得や学習の深化に難しさがある。